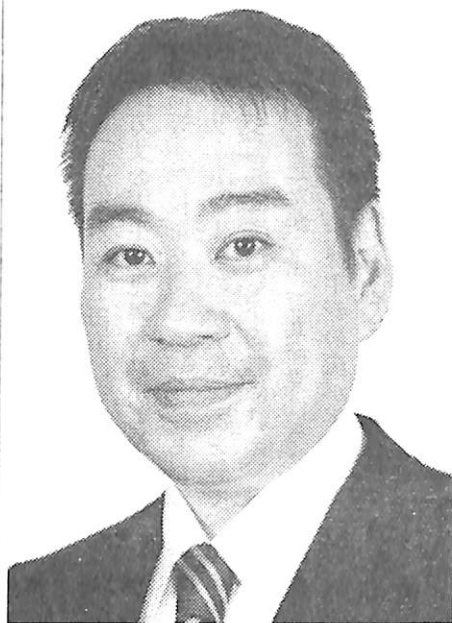
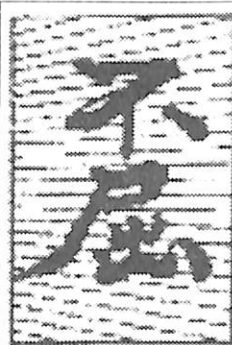


市民と野党の統一候補 羽田次郎さんを決定



故雄一郎さんの遺志を継ぎ必ず当選を!!
信州から新たな時代を全国へ

信州市民アクションと立民・共産・社民の野党3党は、2月27日、立憲民主党から立候補を表明していた羽田次郎さんを市民と野党の統一候補として正式に決定。羽田次郎さんと政策協定を結びました。次郎さんは、兄・雄一郎さんの無念の遺志を継ぎ、必ず勝利し、新たな時代を信州から全国に発信したい、と固い決意を表明されました。



長野県版
第480号
2021年3月

治安維持法賠償同盟

長野県本部

〒380-8790

長野市県町593
高校会館内

連絡 竹村利幸方

TEL・026-226-0854

FAX・026-266-0864

市民アクション・羽田次郎氏・3野党が政策協定

要求と政策で圧倒的支持を

信州市民アクションが提起した政策は、アクション内でも数ヶ月間検討を重ね、三野党とも数次にわたり意見交換した上で、2月27日締結されました。この政策協定の真髄は、タイトルに表現されています。

立憲主義を回復し、憲法を暮らしと政治に活かし、競争と自己責任の社会からいのちと人間の尊厳を守る社会へ

そして、前文ではコロナ禍の克服、羽田雄一郎さんの遺志の継承を謳い、7項目(要旨)の政策を掲げています。1、コロナ禍の収束、国民のいのちと暮らしを守る。

2、立憲主義の回復、民主主義の再生、憲法改定に反対。
3、新自由主義の転換、格差と貧困の対策を強める。

4、東京一極集中から地方分権へ

5、ジェンダー平等、人権尊重社会へ

6、日米同盟中心外交から東アジア諸国との友好推進

7、地域と郷土を災害から守り、地域住民の福祉の拡充を。

羽田次郎と3野党、信州市民アクション
政策協定調印式



平林 茂衛さん（「平林堂」創業者）

1925年（治安維持法制定年）に上田市の浦里に生まれ、今年96歳に。人は誰でも波乱万丈の人生に見舞われがちだが、平林さんも例外ではない。尋常高等小学校を卒業して、予定した満州行きをやめ国鉄に入社。国鉄エリートコースの鉄道教習所を経て、昭和20年2月召集されるも敗戦で国鉄に復職。正義感に燃え、職場の民主化にとりくみ、二・一ストをたたかう中で共産党に入党。ところが、昭和24年7月、レッドパージの嵐が平林さんに襲いかかった。夢も希望もへし折られ、24歳の若さで路頭に投げ出された。

常に前を向いて——波乱万丈の人生

「社会の進歩に役立つ仕事をしながら生きたい」と。到達したところが本屋の道だった。しかし、資金も店舗も人手もない。地を這うようなつらさとたたかいながら一歩ずつ積み重ね、見出したのが学校周りの商法。自転車で砂利道を何十キロも毎日ペダルを踏む。お兄さんや米山順夫さん（県本部元事務局長）などが加わり重層化し順調に発展。理論社創業の小宮山量平さんらの助言や支援と平林

この人紹介



さんの誠実な人柄と『社会のために』の哲学・理念が生かされ大きな発展がつけられた。平林さんは、2017年まで県本部の副会長、現在は顧問。山宣の碑の再建に尽力。長野山宣会の会長も歴任。

永田廣志から学ぶ 第3回

—没後74年に寄り添って—

中信支部 島崎建代

（三）永田が最も活躍した年代・一九三六～三八（一）

（『日本唯物論史』を中心に）

永田は現代唯物論の基礎理論の普及にも尽力している。「永田廣志はロシア語の文献・レーニンなどの文献を読みこなしただけでなく、ドイツ語の文献マルクス・エンゲルスなども詳しく研究して、マルクス主義の基礎理論の研究書を出版している。『史的唯物論』（一九三三年）、『唯物弁証法講話』（一九三三年）、『唯物史観講話』（一九三五年）、『現代唯物論』（一九三五年）など優れた著作。戦後になっても『現代唯物論』と『唯物史観講話』は再刊され普及していった」（前出・鰐坂真関大名誉教授）。戸坂潤は「『5 唯物弁証法講話』は……もつとも便利な信頼出来る又甚だ興味に富んだ読物としては、単に初学者の入門書としてばかりでなく、専門家の研究整理用の参考書としても、私はこの本を薦めることが出来る」（戸坂潤全集第五巻・勁草書房）と評価しています。

つづいて、日本思想史の研究へと進みます。「一九三四年より、永田廣志は日本思想史の研究に取り掛かる。『明治時代における宗教批判の特質』（一九三四年）、『福澤諭吉について』（一九三四年）、『日蓮主義と現代』（一九三五年）、『明治思想史の若干の研究について』（一九三五年）、『思想体系としての国学』（一九三五年）、『現代に生きてくる徂徠』（一九三五年）、

《以下4面下段につづく》

呼びかけ人・鮎沢聡さんはじめ17名

映画「伊藤千代子」製作・上映 長野県実行委員会結成のつどい

とき 2021年3月28日（日）
午後1時30分～
ところ 長野市・高校会館
内容 県実行委員会の結成 各地の実行委員会の交流 桂監督も東京から参加予定

・鮎沢聡（共産党県委員長）
・石坂ちほ（元長野県会議員）
・金井忠一（県生健会会長）
・木嶋日出夫（元衆院議員・弁護士）
・木村郁子（県母親連絡会事務局長）
・清水信明（県民医連会長・医師）
・滝澤孝夫（県商工連会長）
・竹上一彦（県農民連会長）
・竹内暢（税経新人会関信会長・税理士）
・遠山茂治（国賠同盟県本部会長）
・中澤誠人（県民青同盟委員長）
・藤森守（千代子こころざしの会長）
・細尾俊彦（県労連議長）
・松島博（県国民救援会長）
・毛利栄子（共産党県議団長）
・山口光昭（県革新懇代表世話人）
・山崎泰正（自由法曹団支部長・弁護士）

結成のつどいへのお誘い

長水地域実行委員長 綱島信一

劇映画「伊藤千代子の生涯」製作・上映の実行委員会に加わって頂きたいと言ご案内させていただきます。伊藤千代子は信州白樺教育運動の影響を強く受けたアララギ派歌人土屋文明・諏訪

高女校長の教鞭を受け、長野県が生んだ革命家です。

諏訪市に生まれ育った千代子は、やがて東京女子大学へ進学し社会科学研究会で革命について学び、マルクス主義学習会にも参加。高いレベルの理論内容をたちまち吸収して血肉化し、1929年2月29日に共産党に入党。実践的な闘いに加わりますが、3・15事件で逮捕・投獄され、拷問等肉体的・精神的苦難で拘禁精神病になり24歳の若さで死去しました。

伊藤千代子らのあの時代の闘いは、遠い昔話ではありません。治安維持法は1945年にGHQにより「人権指令」により廃止されましたが、自民党政府はことあるごとに、暗黒政治の再来を狙ってきました。現実に法律となつて再現されたのは、「共謀罪法」の成立によつてです。選挙で自民・公明・維新に圧倒的多数を与えれば確実に彼らは「共謀罪法」を最大限に利用して、思想犯を検挙し準備行為との理由付けで様々な民主的運動を権力を使って弾圧してくることは間違いありません。

私たちは、市民と野党の共闘で何とかその目論見と対決していきますが、その運動が起きるきっかけが「安保関連法制」戦争法の強行成立であつた事は皮肉な出来事でした。

現在も菅自民党政権は「安保関連7法」の実施を狙っており、とりわけ憲法9条の改悪と緊急事態条項の設立を巡り、民主的な運動を実施している労働組合・市民団体などとはせめぎあいが続いています。

伊藤千代子らの生きた時代を学習することにより現在の我々の闘いの位置づけが更に鮮明になることは間違いありません。多くの仲間がこの映画を観ることが出来たら、必ず「世の中の地殻変動」が起こると考えています。是非とも映画製作・上映運動にご参加ください。（紙面の関係で文章を短縮させていただきました）

県内の動向

3・11-フクシマ 風化させない県内の取組み

フクシマ10周年にあたり、県下各地でのとりくみを県労連がまとめました。コロナ禍にありながら1200人もが、それぞれの行動に参加しました。3・11-フクシマを忘れない!!

松本	▼小出裕章講演会 ▼10年目の3・11 つながろうフクシマ!	2月14日-160人 3月 7日-300人	松本ウイング 松本花時計公園
長野	▼講演会「フクシマの今を問う」 ▼東京電力・福島原発事故から10年 ▼3・11アピール行動	2月13日-80人 3月 7日-150人 3月11日-30人	長野市JAビル 長野市南千歳公園 長野駅前
佐久	▼平和をつくろうみんなの集会2021	2月11日-85人	佐久市エデュカル トリア
上小	▼脱原発つながるパレード	3月 7日-60人	上田駅前広場
東御	▼オンライン・シンポジウム	3月6日	オンライン
飯水	▼フクシマを忘れない!フクシマとつながろう	3月 6日-50人	飯山市女性センター
飯伊	▼スタンディング行動	3月11日-60人	飯田市殿岡交差点
上伊那	▼フクシマを忘れない3・7上伊那アクション (集会と講演)	3月 7日-184人	伊那市いなっせ広場

《2面より》続く》

『国学の社会的役割』(一九三六年)、「中江兆民の『理学鉤玄』について」(一九三六年)、『廃仏毀釈の歴史的意義』(一九三六年)などの論文があり、これらを踏まえて日本の唯物論を体系的に論じた日本で最初の『日本唯物論史』(白楊社・一九三六年)が出版されます。江戸時代の漢学・洋学のなかに……先駆的思想があったこと、そのピークに安藤昌益と山片蟠桃をおき、そのあたりからの日本唯物論の伝統を解明した名著である」(前出・鰐坂真関大名誉教授)。

一九三八年には、『日本封建制イデオロギー』(白楊社)と『日本哲学思想史』(三笠書房)、永田の代表三部作ができあがります。

3・11から10周年 長野市・飯田市で訴え

10年前の3月11日、東日本大震災・フクシマ原発事故発生。10周年を記念して、再びこうした大災害を起こさせない訴えが、長野市と飯田市で行われました。いずれも「原発ゼロ、自然エネルギーへの転換を求める連絡会」等が呼びかけ、労働組合や市民団体がリレートークしたり、スタンディングで訴え、通行人や近隣の商店街の人たちから声援が寄せられました。

《写真は長野駅前での宣伝》

